

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 115号

2014/10/20 発行
株式会社 立花商店
西岡 あずさ

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：圧砕高発表。需要鈍化懸念とエボラによる供給懸念により値動き激しく。

① 最高：12月 LDN 市場£ 2,064/12月 NY 市場\$3,153 (10/15) 先週比 **LDN +£ 11/NY -\$4**
② 最低：12月 LDN 市場£ 1,998/9月 NY 市場\$3,059 (10/13) 先週比 **LDN -£ 20/NY +\$21**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£ 66 (傾向↑) / NY 市場\$94 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN 市場 241,526 枚(10/10 終了時)⇒241,475 枚 (10/16 終了時) **-51 枚**
NY 市場 202,693 枚(10/10 終了時) ⇒198,957 枚 (10/16 終了時) **-3,736 枚**

【10月13日(月)】両市場とも大幅反落

ニューヨーク市場は利食い売りで大幅反落。序盤の取引では、エボラ出血熱の感染拡大に伴う供給不足懸念を背景に、前営業日の水準からさらに上昇していた。12月きりは98ドル(3.1%)安の**3059ドル**で終了。一時は3208ドルまで上げた。ロンドン市場も大幅反落。12月きりは55ポンド(2.7%)安の**1998ポンド**で取引を終えた。ディーラーらは14日に公表される第3四半期の欧州のカカオ豆圧砕高について、横ばい、もしくは小幅に減少するとみている。

【10月14日(火)】両市場とも反発

遅い段階でショートカバーが入り、反発した。欧州の需要鈍化懸念が相場を押し下げる一方、エボラ出血熱への懸念が買い手を引き付け続けている。ニューヨーク市場の12月きりは43ドル(1.4%)高の3102ドルで引けた。ロンドン市場の12月きりは37ポンド(1.9%)高の2035ポンドで引けた。

【10月15日(水)】続伸＝エボラ出血熱懸念

ココア先物は続伸。西アフリカにおけるエボラ出血熱の感染拡大懸念に支援された。ニューヨーク市場の12月きりは、51ドル(1.6%)高の**3153ドル**で終了。ロンドン市場の12月きりは、29ポンド(1.4%)高の**2064ポンド**で引けた。

【10月16日(木)】反落＝需要鈍化懸念が圧迫

ココア先物は反落。ニューヨーク市場の12月きりは67ドル（2.1%）安の3086ドルで引けた。需要鈍化懸念が圧迫要因。ロンドン市場の12月きりも43ポンド（2.1%）安の2021ポンドで終了した。

【10月17日(金)】ニューヨーク、ロンドンともに反発

ニューヨーク市場のココア先物は反発。第3四半期の北米のカカオ豆圧砕高が市場予想を上回ったことを受け、値上がりした。ただ、国際ココア機関（ICCO）が、西アフリカのエボラ出血熱流行の影響について、カカオ豆市場に大きな混乱を引き起こすことはないとの見通しを示したことで、上昇分を一部消した。12月きりは32ドル（1%）高の3118ドルで終了した。取引時間中に一時、3140ドルに上昇する場面もあった。ロンドン市場の12月きりも反発。13ポンド（0.6%）高の2034ポンドで引けた。エボラ出血熱の感染はこれまでのところ、世界最大産地のコートジボワールと2位のガーナには拡大していない。

2、ナイジェリア：クロスリバー州のカカオ豆価格下落(10/15)

ナイジェリアで第二のカカオ栽培量を誇るクロスリバー州において、カカオ豆価格が先月に最高値を記録して以降下落している、と業界の関連筋や取引関係者が発表した。

ナイジェリアのカカオ協会のスポークスマンである Godwin Ukwu 氏によると、9月末に国の南東部のクロスリバー州においてグレードカカオ（政府の製造検査官により輸出に適していると認められたカカオ豆のこと）の価格が NGN480,000 から、NGN470,000(\$2,838)-475,000(\$2,868)に下落したという。

カカオ豆価格はクロスリバー州では8月に NGN490,000 を記録しており、今年の最高値をつけた。Ukwu 氏はこれについて、国際市場価格の下落につられたと主張。

彼はクロスリバー州のカカオ豆価格について「通常は、国際市場価格にしたがって上下する」といい、さらに気候が改善され、適切な日照を得られているため、クロスリバー州のカカオ豆の品質は良いと加えた。クロスリバー州の州都 Calabar のトレーダーによると、予定よりも早い月末の乾燥期の始まりにより降雨が減少している。

「降雨の減少と十分な日照により、市場に良質なカカオ豆が出てきている。先月は日照もなく降雨が続いていたため、農家も先月よりよくカカオ豆を乾燥させることができた」と続けた。

クロスリバー州はナイジェリア南西部のオンド州に次ぐ東部最大規模のカカオ豆の産地で、ナイジェリアのカカオ協会(CAN)によると年間 60,000 トンのカカオ豆を栽培している。



3、カメルーン：南西カメルーン、カカオ豆供給過多により価格下落(10/13)

カメルーンでは今クワットの生産量の増加により、南西部では今週カカオ豆が安価で取引された、と農家やトレーダーらが月曜、Dow Jones Newswires に語った。

政府及び業界の数値によると、世界5位のカカオ豆生産高を誇るカメルーンにおいて、その40%の生産を担う南西部で、2013/2014期のメインクワットの収穫が始まったことにより、カカオ豆の価格が下落している。「現在カカオ豆はキロあたり XAF1,280-1,300(\$2.47-2.51)で買付している」と南西部のカカオグループのリーダーで、農家である James Lobe Musima 氏。2週間前はキロあたり XAF1,350-1,400 で取引されていた。カメルーンは2013/2014期に209,905トンのカカオ豆を生産しており、昨シーズンの228,911トンから減少している。カメルーンのカカオシーズンは8月から翌年7月である。

4、ヨーロッパ：カカオ磨砕量低下、価格下落を促進(10/14)

ヨーロッパにおけるカカオ豆の磨砕量が7月から9月の期間で低下し、一定の製造量を望んでいた投資家らをやや落胆させた。これにより早期の取引における価格の下落が促進された。

主たるチョコレート製造地域であるスイスを含むヨーロッパの加工業者は、この四半期で327,866トンを磨砕したとブリュッセルに拠点をもちヨーロッパ・カカオ協会は伝えた。この数値は通常のリズム要因により4月から6月の307,938トンから増加しているものの、昨年の同四半期から1.1%ボリュームダウンしている。

この数値は当該期間における予測磨砕量よりやや少なく、アジアと北米のデータも含む各大陸の四半期統計資料発表の第一弾としては残念なスタートを意味することとなった。

これとは別に火曜日、ドイツ菓子製造協会は最新四半期の国の磨砕量が昨年より5.5%下落して87,450トンであったというデータを示した。

カカオ相場における早期取引が弱まり、ロンドン相場の12月きりの契約は0.6%安の£1,987へ、ニューヨーク相場は1.1%安の\$3,026となった。

「磨砕量の数値は思わしくなかった」とUKソフトコモディティのトレーダーはAgrimoney.comのインタビューに答えた。「この結果は北米とアジアの数値により重圧をかけることとなった」という。

いずれにしても「市場が最も関心を示しているのはエボラ出血熱であり、世界トップのカカオ豆産地である西アフリカ地域でその流行がどのような影響を与えるかにある」と続けた。カカオ豆生産トップ2か国であるコートジとガーナではエボラ出血熱は報告されていない。

5、コートジ：購買システムにおける規制を強化(10/13)

国のカカオマーケティングボードによると、コートジ政府はここ10年での自由化をコントロールするため厳しい規制を導入した。

政府は2012/2013期において採用していたスポット購買のシステムを放棄し、農家に対して最低価格を保障するため、また老朽化したプランテーションへの投資を奨励するため、クロップの早期販売を行った。

品質への厳しい規制を含め、このようなシステムの再構築は農家の収入の増加やコートジ産カカオ豆の評価を改善させたとし、政府から高く評価されている。しかし複数の輸出業者は、これらの規制は過度に厳格で、彼らの利益率を悪くする危険性をはらんでいると早くも批判している。

コーヒー・カカオ協会によると先週、輸出業者と商社に送られた条例の中に新規制が記載されていた。10月から3月のメインクロップの収穫の間、カカオ豆の購買量が110,000トンまでに制限された。これによると、10月から12月の間70,000トンが、1月から3月の間40,000トンまでに制限されることになる。輸出業者が規制を免れるのは4月から9月の間のミッドクロップになり、この時期のカカオ豆は小ぶりで、通常加工用の原料として使用され、ココアバターココアパウダー製品に使用されている。

この早期販売システムでは、輸出業者は決められた期間内に一定量の豆を輸出する権利について入札する。この新規制によると、輸出権限のある豆の110%までを購入することが許されている。そのため輸出業者間の豆の売買という二次市場を縮小させる。

輸出業者は、メインクロップにおけるアビジャン港とサンペドロ港に到着したカカオ豆はキロあたり938CFAフラン(\$1.81)の政府制定の固定価格以上の価格を支払うことができなくなった。

「政府は小規模事業者を保護し、地域の製造を支援しようとしているのだと思う」とアビジャンに拠点をもつ輸出業者は語る。「確かにそういった人たちの支援にはなるが、大規模輸出業者は納得しないだろう」と続けた。

昨シーズン輸出業者は国内集荷企業(仲買い企業)に対して供給を保障するために、設定価格に15CFAフランまで上乗せして支払うことが許可されていた。

価格ルールに違反すると、取引量のキロあたり50CFAフランの罰金を導入した。しかしながら輸出業者は500トンから3,000トンを提供した国内集荷企業に対してはキロあたり10CFAフランの期末プレミアム、3,000トンを超える場合はキロあたり15CFAフランの期末プレミアムを支払う。

「今の制度は経済的には不釣り合いである。我々はもはや働き方に自由が無い。コーヒ・カカオ協会(CCC)は全てにおいて我々をコントロールしている。正常な状態ではない」と、アビジャンに拠点をおくヨーロッパ輸出業者の役員はいう。

CCCは国内集荷業者と生産者組合について新しい規制を設け、在庫のストックは30日までと定めた。「この

期間内に在庫を処分することが困難なものは、解決策を模索するため、CCC に早期に連絡をすること」と記されている。彼らの在庫を追跡するため、CCC は国内集荷業者と生産者組合に対して彼らの週間購買量を申告させた。

「CCC は急進的な方法を取り、我々にマージンを与える間もなくすべての工程をコントロールしようとしている」と第三輸出業者は語った。

6、カカオ豆の密売は新しい生産者買付け価格によって減少見込み(10/13)

ガーナから近隣国へのカカオ豆の密売は、政府が新たに発表した製造者価格が 62.74%増であったことによって大幅に減少することが予測されている。地域農家は特にガーナより高い価格をつけているコートジなどに対して、生産物を販売することに魅力を感じていた。しかし新クロップの始まりに新価格が発表されたことによってガーナの農家は密売をやめると話している。

1袋64キロのカカオ豆は 345 ガーナセディで取引されるようであった。トンあたり 3,392 から 5,520 ガーナセディへの増加である。

Opanin Yaw 氏は約 30 年間カカオ農家を続けてきた。彼は長年農作物で生計を成り立たせてきたが、新価格の公表にはとても興奮しているように見えた。これまで彼にとっては近隣国への密売が最善の選択肢であり、生計を成り立たせることができる要因であった。

「ガーナでは 211 ガーナセディであったのに対して、コートジでは 280 ガーナセディで売ることができ、これは国内価格よりもはるかに高値だったため、私にとってコートジに売ることの方が良かった。新価格を聞いたときには興奮して、飛び上がるような気分だった」と Opanin 氏。

彼の話では、まだまだ価格は高く設定できるはずと考えてはいるが、この新価格は彼のような農家がこの古い慣習を断ち切るよう促進するだろう。農家はこの変化が彼らの生活に大きな影響を与えることを喜んでおり、特に未成年者への教育の資金源となる。

「以前は 1000 ガーナセディを得るためには 5 バッグの販売が必要だった。しかし今では 3 バッグでいい。この変化は非常に喜ばしいことである。私の子供は高校へ入学するが、ようやく彼の教育費を払うことができると語った。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp